



◀9月18日、琴平山前の浜改田の海岸でアオウミガメの放流が行われました。このウミガメは対馬承認者の橋本昇一さん(浜改田)が、こし同海岸で生まれたカメを保護して育てたもの。
この日は、大蔵小学校4年生・児童保育所の園児ら約70人が参加して、別れを惜しみながら、110匹の稚亀を放流しました。



▲9月14日、ボランティアグループあかつき会と市の主催による第6回国際文化交流講座「メキシコ文化と料理のつどい」が、高知大学留学生のベレス・ノカルド夫妻を講師に迎え、大蔵公民館で開催されました。約40人の市民が参加し、メキシコについての理解を深めるとともに、代表的なメキシコ料理タコス デファヒタスを調理、試食しました。



▶男女平等社会と女性の地位向上、地域社会でのより一層の活躍を促そうと、香長いきいき女性塾が保健福祉センターで開催しました。これは、四市町村(南国市・土佐山田町・野市町・吉川村)の女性リーダー33人が集まり、5回の研修を行うもの。第一回の九月七日には、女性の自立の歴史などを学びました。



▲9月11日、大蔵小学校などで第30回南国市同和教育研究大会が開催されました。「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」が研究主題。こしは、分科会と全体会の日程を入れ替えて、議論や研究を深めました。



▶九月一日、グレース浜すしで第四十回金婚式典が行われました。こし金婚式を迎えたのは県内で史上最多の千七百七十七組で、新憲法が施行された昭和二十四年に結ばれた夫婦。式典では、これまで二人でともに歩んできた道のりを表わすかのように、お互いを気づかう様子が見られました。



▲9月7日、「救急の日」を前に消防署は、大蔵公民館を会場に普通救命講習会を開きました。この日は、地域で防災活動に活躍している婦人防火クラブのメンバーや一般市民ら34人が講習を受けました。参加者は消防署員から応急手当の基礎知識について話を聞いた後、意識・呼吸の確認の仕方などを学び、腕立ての演技の指導を受けました。



▶九月八日、井上泉さん(福生)が、自らの歩みをつづらせた自叙伝「遠き白い道」を市内小・中学校十七校に寄贈しようと、市役所教育長室で贈呈式を行いました。



▶防災の日の九月一日、同豊地区防炎訓練が同豊高校で、地域住民や同豊高校生ら千七百人が参加して行われました。高校のすべての学生が参加しての総合防災訓練はあまり例がなく、参加した高校生は少しとまどいながらも消火訓練や非常食作りの訓練を機敏に行いました。



▶結核や肺がんなどの胸の病気をなくすために複十字シル募金運動が行われています。この運動の募金強化月間中の九月五日、健康づくり婦人会が、市役所に募金のお祝いと啓発に訪れました。なお、各地区には健康づくり推進員らが募金をお願いしています。



▲第35回南国市民体育大会は、18種目で7月27日から開かれ、各競技で熱戦が繰り広げられました。9月7日、こし初めて「ベタンク」の種目が登場。会場の土曜市広場には、19チーム38人が集まり、時折、激しい雨が降る中、日ごろの練習の成果を競いました。入賞チームは次のとおり。
1位二流会B 2位二流会C 3位二流会D
最優秀二片川チーム



▶九月十二日、老人保健施設「夢の里」で行われた敬老会にひまわり幼稚園(園長中島)の園児六十人が参加。園児はお年寄りらに英語童謡や歌などを披露した後、手遊びなどをいっしょに楽しみ、お年寄りとの楽しいひとときを過ごしました。
また、園児はこの日のために和紙のちぎり絵を作製。園児の代表が手渡し



▲最近、県内外で子どもを狙った凶悪事件が相次いで発生しています。このほど同豊地区では、地域・学校・PTA・警察が一体となり、子どもたちの安全確保を強化しようと、校区内の常に人のいる民家や理髪店、タバコ店などの33か所を「子どもを守る110番の家」に指定、子どもたちが身に危険を感じたときの避難場所となります。また、地域の人々に校区内の子どもたちに関心を持ってもらい、自分の子どもと同じように見守っていくというねらいもあります。



▶県と県農業機械協会は本県農業の活性化につなげようと、九月十三日から十四日までの二日間、県農業技術センターで、第六回県農業振興フェアを開きました。

最新の農業式験研究成果の紹介や、最新鋭の農業機械の実演・展示、ふれあいコーナーでは、高橋光さんのヘルシー野菜料理教室も、また、特産品などが当たるお楽しみ抽選会など多彩なイベントで、フェアは盛り上がりしました。



▲台風のために延期となっていた清風園の納涼祭が8月23日、盛大に行われました。社会福祉協議会職員らのお手伝いのもと、焼きそばやタコ焼きなどの出店が並び、入園者のお年寄りも大喜び。暑い夏の夜を吹き飛ばすひとときとなりました。